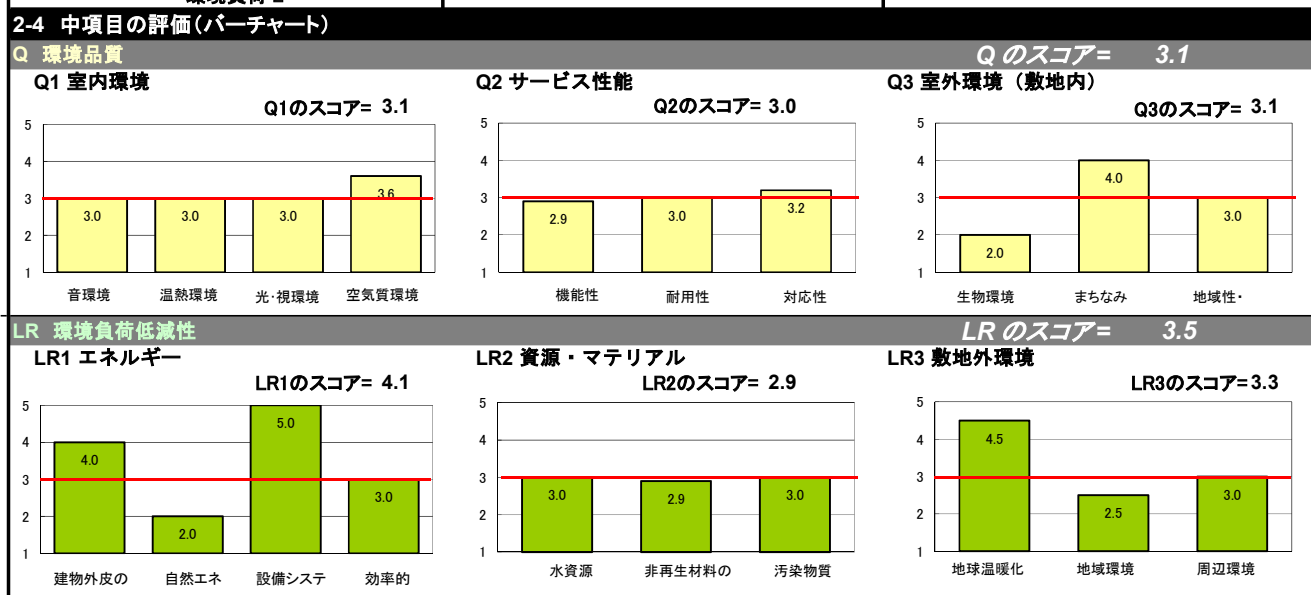
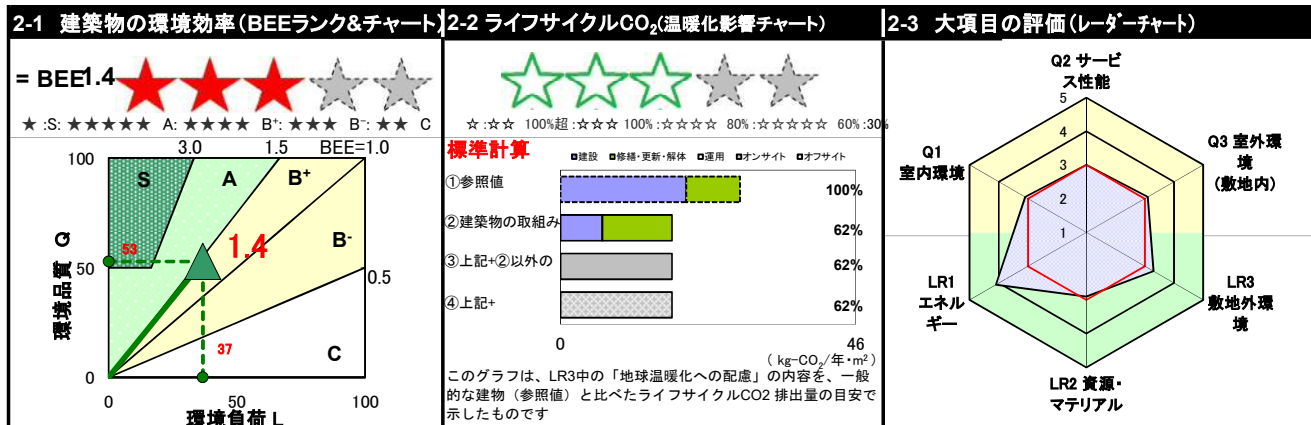


CASBEE® 名古屋

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE 建築環境総合性能評価システムマニュアル2016 使用評価ソフト: CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

1-1 建物概要			1-2 外観	
建物名称	(仮称)覚王山丘上町プロジェクト	階数	地上6階地下1階	
建設地	名古屋市千種区丘上町1丁目35番36番	構造	RC造	
用途地域	準防火地域	平均居住人員	190 人	
地域区分	6地域	年間使用時間	XXX 時間/年(想定値)	
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価	
竣工年	2023年3月 予定	評価の実施日	2022年11月10日	
敷地面積	3,168 m ²	作成者		
建築面積	2,030 m ²	確認日	2022年2月4日	
延床面積	9,499 m ²	確認者		



3 設計上の配慮事項		
総合	その他	
周辺住環境への緑の寄与など周辺住環境への配慮と、周辺の閑静な住宅群からみても引け劣らない、建物にした。		
Q1 室内環境 開口部にはLow-E複層ガラスを採用することで高い断熱性能を確保し、快適な住環境としている。また、シックハウス対策として全面的にF☆☆☆☆を採用している。	Q2 サービス性能 建物を長期利用できるように日本住宅性能表示基準「3-1劣化対策等級」における等級3を確保している。また、階高をできる限り確保し、広々とした天井高を確保している。	Q3 室外環境 (敷地内) 10%以上の緑化を行った。道路面にはみ出すように中木、高木を植栽することで近隣にも配慮した。さらに高木や中木を植栽することで、緑豊かな住環境を作ること心掛けた。
LR1 エネルギー 建物外皮性能は日本住宅性能評価表示基準「5-1断熱性能等級」における等級4を満たす。	LR2 資源・マテリアル ライフサイクルCO ₂ 排出率が一般的な建物(参照値)と同等。 ディスプレイを設置し生ごみの軽減を行っている。	LR3 敷地外環境 ディスプレイを設置し生ごみの軽減を行っている。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目スコア・結果シート

(仮称) 覚王山丘上町プロジェクト

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル

■評価ソフト:

CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

重点項目		評価	全体に対する 重み係数	重点項目 スコア
1. 温暖化対策				4.0
LR1	エネルギー	4.1	0.4	
LR3.1	地球温暖化への配慮	4.5	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	2.0	0.05	
2. 自然共生				2.5
Q3.1	生物環境の保全と創出	2.0	0.09	
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	有	0.009	
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上	3.0	0.045	
3. 循環型社会				2.9
LR2.1	水資源保護	3.0	0.06	
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	2.9	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	3.0	0.01875	

結果

1. 温暖化対策

評価点 = 4.0



2. 自然共生

評価点 = 2.5



3. 循環型社会

評価点 = 2.9



重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。